

平成29年度

第3回岡山市男女共同参画専門委員会要旨

- 1 日 時 平成30年2月8日（木）午後3時30分～午後5時
- 2 場 所 岡山市役所議会棟3階第1会議室
- 3 出席委員 高田委員長、小松副委員長、貝原委員、寺尾委員、土井委員、原田委員、日笠委員、松井委員、光岡委員
- 4 出席職員 小野市民協働局統括審議監
(女性が輝くまちづくり推進課) 逢澤審議監、石原課長代理、祇園館長、高村主査、植木副主査
- 5 傍聴者 なし
- 6 議 事
 - (1) 岡山市男女共同参画社会の形成の促進に関する条例第19条第3項運用基準適用について（報告）
 - (2) 岡山市男女共同参画社会の形成の促進に関する基本計画「第4次さんかくプラン」数値目標及び成果指標に係る現状値（平成29年度）について
 - (3) その他
- 7 配布資料
 - 資料 1 岡山市男女共同参画社会の形成の促進に関する条例第19条第2項の適用に係る審査票（第19条第3項運用基準適用）【介護認定審査会】
 - 資料 2 岡山市男女共同参画社会の形成の促進に関する基本計画「第4次さんかくプラン」数値目標及び成果指標に係る現状値（平成29年度）（案）
- 8 会議の状況
 - 議題1 岡山市男女共同参画社会の形成の促進に関する条例第19条第3項運用基準適用について（報告）
 - 事務局の報告
 - 資料1 「介護認定審査会」について事務局より説明。正副委員長に承認いただいたことを報告
 - 議題2 岡山市男女共同参画社会の形成の促進に関する基本計画「第4次さんかくプラン」数値目標及び成果指標に係る現状値（平成29年度）について
 - 主な意見
 - <目標⑤ 市の実施するDV・デートDV防止啓発講座等の受講者数（P11）>
 - ・市の実施するDV・デートDVの啓発講座で、一般と大学生を対象としているが、高校生など対象年齢を低くしないと大学生では遅い。一般と大学生とわけた受講者数があったほうがいい。
 - ・今、問題となっているのは、高校生など若い人である。早い時期にDVであると気づくための予防教育が必要。中学生は義務教育で行われているが、高校生はない。対象を広げた講座が必要。→今年度は初めて、後楽館高校出前講座を実施した。アンケートによれば、初めてデートDVの話が聞けてよかった、精神的な暴力や過度の束縛がDVになることがわかったなどの意見があ

ったことから、早い時期で知ってもらようよう対象年齢を低くするようにしていきたい。

<指標N 岡山市に住み続けたい外国人の割合（P18）>

- ・岡山市に住み続けたい外国人の割合は7割となっているが、3割は住み続けたくないということになる。住み続けたくない理由はわかるか。
→住み続けたくない理由を項目に入れたところだが、対象が外国人なので、詳しいことを聞くと、回答が難しい場合もあり、理由の把握ができていない。

<目標⑬ 放課後児童クラブの入所希望に対する入所児童の割合（P22）>

- ・放課後児童クラブのところに記載のある「子ども・子育て支援に関するアンケートは、0～12歳の子どものいる世帯を対象にアンケートをしているが、7歳からでいいのではないか。
→所管課は、将来の利用見込み児童数を想定し、必要な放課後児童クラブの数を把握するため、小学校に上がる前の子どものいる世帯も対象にし、実際その子どもが小学校に上がった時に利用したいかどうかを聞いている。それをもとに、利用見込み児童数を算出し、平成29年度は8,570人となっている。
- ・これでは今現在どれだけ足りないのか実情がわからないのではないか。
→申請書を出してもらわなければ、実数はわからない。
- ・0から6歳と学校に通っている7歳から12歳の数字を分けたらいいのではないか。そうすれば放課後児童クラブに入りたくても入れない数字がわかるのではないか。
→数年前までは3年生までが放課後児童クラブに入ることができたが、現在は6年生まで入ることができる。4年生になって入ることができるかどうかは、学校によって異なることもあり、担当課としては、この数字になる。
- ・学校でやっている放課後教室がある。放課後児童クラブだけでなく、放課後教室の利用者数もあったほうがいいのか。放課後児童クラブは、働いている親が対象になるが、放課後教室は誰でも利用できる。
→放課後児童クラブも放課後教室も市にそれぞれの担当部署があるので、利用者数を出すことは可能である。

<指標S 仕事と生活とのバランスの満足度（P24）>

- ・参考のグラフの正規社員、非正規社員、その他の対象者数はわかりますか。
→正規社員は全体が125人、うち男性68人女性57人、非正規社員は全体が64人、うち男性12人女性51人不明1人、その他は全体が53人、うち男性26人女性27人
- ・グラフの凡例が小さくてわかりにくいので、大きくしてほしい。

<目標⑰ 市職員の女性管理職の割合（P27）>

- ・女性職員の何%が管理職で男性職員の何%が管理職かあったほうがいいのか。

<その他>

- ・5年後でいいと思うが、内容が古いものもあるので、指標の内容を再検討しないとイケない。70万人の都市で1,000人を対象に調査を行い、回答が300人で全体を評価するのは違うのではないか。対象人数を増やさないとイケない。
- ・平成28年度に実施した主な施策の46ページに、なぜ食育の推進が入っているのか。学校給食を共有したことなどとリプロダクティブヘルスライツとどのような関係があるのか教えてほしい。

議題3 その他

○来年度の新しい事業について説明

- ・性の多様性など新しい課題に対応するため、さんかく条例改正に向けての検討を行う。市民や当事者、支援をしている人などの意見を聞き、どのように盛り込んでいくか考えていきたい。具体的には市民向けのワークショップや当事者の意見聴取などを4回実施し、専門委員会で意見をいただく。
- ・女性活躍及びワーク・ライフ・バランスに関する調査を実施する。女性活躍の状況やワーク・ライフ・バランスの実態について市民3,000人と社員10人以上の市内企業を対象に調査を行う予定。企業には、女性の雇用や女性管理職登用の実態及び意識、両立支援制度の実績などを調査し、市民には、女性が働き続けるための課題や管理職登用についての女性の意識、女性活躍に向けて行政に求めることなどを調査し、現状と課題を把握していきたい。

○女性活躍及びワーク・ライフ・バランスに関する調査についての主な意見

- ・回収率はどれくらいか。
→数年前に行った調査では企業も個人も4割ぐらい。
- ・女性の管理職について、国は目標値を設定しているが、岡山市も同じ目標値か。
→平成24年が約10%で、5年間で5%上昇するという目標値を岡山市の総合戦略で設定している。
- ・10人以上の企業を対象としたアンケートを行い、両立支援等の取組をしているか、どんな努力をしているかと聞かれると、従業員が十数人の企業は、そこまでできないからとアンケートを出すのを止めてしまう。10人以上の企業と100人以上の企業では全く違う。聞き方を考えないといけない。
- ・商工会議所で意見を聞いて修正を加えていくというアンケートなどあるか。
→今年度、商工会議所会員向けのアンケートを行い回収したが、それをベースに聞き方などを考えながら作成していきたい。